

# 茨城県浅海増殖事業の効果性に関する調査—Ⅶ

## アワビ類の年令査定の一方法について

藤 本 武

### I 緒 言

従来アワビ類の年令査定の方法は、高山<sup>1)</sup>の貝殻を直接加熱によって焼き押し貝殻を各年輪毎に割る方法と、林<sup>2)</sup>が貝殻を切断しエオシン(eosin)で染色して、真珠層はエオシンに染色されるが年輪の部分は染色されない非常に薄い層が存在することを確かめ、年令査定の形質として用いている。その他に薬品処理により貝殻の表皮を溶かして真珠層を残し年輪をたしかめる方法や、貝殻表面と内面年輪の形成状態によって読みとる方法が用いられてきたが、いずれも貝殻表面の年輪を損傷することが多く、また成長度調査の精度に一考を要した。

筆者は先に山田<sup>3,4)</sup>とともに北海道から移殖したエゾアワビの成長効果について報告したが、その材料によりクロとエゾアワビの年令査定について電灯光を利用して年輪を簡単に判読できたので、その方法について報告する。

### II 供資材料

材料は昭和34年5月から昭和37年5月までに県内各地<sup>3)</sup>で漁獲された地貝(クロ)13個と、北海道奥尻島から移殖したエゾアワビの標識放流再捕個体6個、および移殖放流個体とみられる(無標識放流個体)もの8個、合計27個体を用い、年令査定のしやすいように貝殻表面の付着生物を完全に除去して材料とした。

### III 方法と結果

付着生物を完全に除去したものをを用い、暗室内で各個体毎に電球(電球は何ワットでもよいが、照度の低い印画紙現象用電灯を用いた。)上に貝殻の内面を下にして、覆い被せるようにして近づけると年輪が透けて見え、輪(Ring)はきわめて明瞭に判読できる。この輪(Ring)は一輪を1年と判読するが、疑年輪もあるのでその形成状態を加味して判読し、年輪値から逆算して発生年および移殖年を算定することができた。(図版写真1~2)

### IV 文 献

- 1), 高山活夫:(1940)三重県産鮑の成長度について,(1),水産研究誌,35.
- 2), 林 忠彦:(1955)貝類の年令形質に関する研究—1. 貝類切片による観察1),北海道水研,研究報告,第12号.
- 3), 藤本 武・山田静男:(1964)茨城県浅海増殖事業の効果性に関する調査—Ⅴ,エゾアワビの移殖成長効果について(第1報),昭和37年度,茨城県水試,試報.
- 4), ———:(1965)エゾアワビの移殖成長効果について,貝類学雑誌, Venus, 24(3).

図版

写真1 貝殻表面に現われた年輪

(矢印は各年輪の形式状態を示す。)

標本, 昭和37年8月8日

再捕産地: 那珂湊地先

再捕時殻長: 11.78cm

移殖時殻長: 4.78cm

(昭和34年5月に北海道奥尻島から移殖

された無標識放流個体とみられるもの)



写真2 貝殻表側面に現われた年輪

(矢印は各年輪の形式状態を示し、

矢印0は移殖年を示し、1.2.3

は経過年数を示す。)

